



19世紀学学会・「19世紀学研究所」共催 シンポジウム

ミュージアム論

－ミュージアムの現在－

日時：2011年1月22日（土）午後1時～

会場：新潟大学 総合教育研究棟 大会議室

- ◆荒井 直美（新潟市新津美術館・学芸員）「新潟市新津美術館13年の軌跡」
- ◆大倉 宏（美術評論家・砂丘館館長）「住まい・画廊・美術館」
- ◆安川 晴基（千葉工業大学・ドイツ文学）「歴史博物館と集合的記憶のマッピング：ドイツ歴史博物館、ベルリン・ユダヤ博物館、〈テロのトポグラフィー〉」

ミュージアムという制度は、現在大きく変貌を遂げようとしています。それはそもそも19世紀から20世紀にかけて全盛を誇った啓蒙学習空間であり、19世紀に諸科学・諸学問が自立するのと並行して発展してきました。しかしながら遅くとも20世紀の終わりから、新しい学知が求められているのと呼応するように、ミュージアムも新しい形を模索しているように思えます。今、ミュージアムに何が求められているのか、その理由は何なのかを考えようというのが、当シンポジウム「ミュージアム論－ミュージアムの現在－」の趣旨です。今回は、砂丘館や新津美術館というミュージアムの「現場」を踏まえた話から、ヨーロッパ（ドイツ）の事例を基にした話をさせていただきます。ご関心のある方はぜひご参加ください。

連絡先：19世紀学学会事務局

Tel & Fax：025-262-7601

E-Mail：study_19@cc.niigata-u.ac.jp